

ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(毎月分配型) 最近の基準価額の動きについて

2012年5月25日

＜基準価額・純資産の推移＞

2012年5月24日現在

基準価額	8,604 円
純資産総額	1,516億円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

「ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(毎月分配型)」の基準価額は2012年2月29日の10,251円から5月24日(基準日)現在では8,604円となっています。これを設定来の分配金再投資基準価額で見ますと、2012年2月29日の16,692円から5月24日には14,363円まで値下がりしており、当該期間の騰落率は▲14.0%となっています。

以下の表は、当該期間の「ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(毎月分配型)」の項目別要因分解を示したものです。

＜項目別要因分解＞

分配金再投資基準価額	変化	債券要因	為替要因	信託報酬要因等
2/29 16,692円	▲ 2,329円	+ 639円	▲ 2,936円	▲ 31円
5/24 14,363円	▲ 14.0%	+ 3.8%	▲ 17.6%	▲ 0.2%

※「項目別要因分解」は、基準価額の変動要因の傾向を把握するために大和投資信託が日々のデータを基に簡便法により算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。「項目別要因分解」の計算に当たっては、「分配金再投資基準価額」を用いています。「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※ 上記データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額下落の背景について、項目別要因分解に基づき、次頁以降にてご説明いたします。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

< 基準価額下落の背景 >

債券要因: +3.8%

債券要因は+3.8%と基準価額に対してプラスに働いています。投資しているブラジル国債の利息収入はプラス要因として働きました。また、ブラジル中央銀行は、2011年8月以降3.50%ポイントに及ぶ政策金利の引き下げを行っており、ブラジル国債利回りの金利低下も大幅に進みました。中央銀行はインフレ率が順調に低下してきたことなどを背景に、3月、4月とそれぞれ0.75%ポイントの利下げを実施し政策金利を9.00%としました。3月の利下げを決定した金融政策委員会の議事録では、9.00%に利下げ後は長期間据え置くことが示唆されていたため、市場では4月の利下げで打ち止めとの観測が出ていましたが、4月の同委員会の議事録では追加利下げの可能性に含みを残す内容となりました。また、5月に政府は固定金利の非課税貯蓄性預金について、政策金利が8.50%以下の場合には同預金金利は政策金利に連動して低下する仕組みに変更することを発表しました。これにより、国債から貯蓄預金への資金移動の懸念が低減し、さらなる利下げの可能性が高まったことが、足元での金利低下の背景となりました。

債券市場(国債利回り)

	2月28日	5月23日	変化
ブラジル2年	10.06%	8.61%	-1.45%
ブラジル5年	10.88%	9.74%	-1.14%
ブラジル9年	11.26%	10.25%	-1.01%

※表示の数値は小数点三位を四捨五入しています。

※外貨建資産には為替リスク等があります。

※上記の年限の国債で運用されることを示唆するものではありません。

(出所)ブルームバーグ

為替要因: ▲17.6%

為替要因は▲17.6%と基準価額の値下がり要因になりました。利下げサイクルが継続する中、先進国との金利差が縮小するとの観測が広まったこと、また、ブラジル政府は、国内製造業が輸入品との競争激化によって苦戦していると懸念し、3月から4月にかけて、これまでよりも米ドル高/リアル安の水準でもリアル売り介入を実施するなど通貨高抑制姿勢をとっていたことなどが国内要因として考えられます。

外部要因としては、3月はこれまで難航していたギリシャの債務交換が完了するなどユーロ圏に対する過度な懸念が後退していましたが、4月にスペイン・ポルトガルといった欧州圏の高債務国の国債入札に対する懸念、5月にはフランス大統領選挙で現職のサルコジ大統領が敗れたことや、ギリシャ総選挙で連立与党が過半数の議席を取れなかったことなど欧州債務問題への懸念が再び高まり、世界的な投資家のリスク回避姿勢が強まり、投資資金が円や米ドルへ向かったこともリアル下落へつながったと考えられます。

為替市場

対円相場	2月29日	5月24日	変化
ブラジル・リアル	47.57	39.09	-17.83%

※為替は投資信託協会が指定した金融機関によるわが国の対顧客電信売買相場の仲値を使用しています。

(出所)大和投資信託

<今後の見通し>

欧州債務問題への懸念が続くようであれば、リスク回避的な投資家の動きを受けて、ブラジル・レアルが軟調に推移することも想定されます。しかし、ブラジル中央銀行は2月以降、米ドル買い/レアル売り介入を行い、通貨高抑制姿勢を強めていましたが介入は4月下旬を最後に停止しています。逆に足元では、レアルが対米ドルで約3年ぶりの安値となったことを受けて、今年初めて、米ドル売り介入を実施しました。当局は通貨の急激な変動を抑制しようとしており、現状水準からの大幅なレアル安は望んでいないことの表れと思われます。

ブラジルの景気回復は、今のところ市場が想定していたよりもやや遅れ気味です。しかしながら、好調な雇用市場や実質賃金の上昇に支えられ、消費は堅調さを維持する見通しであり、今後は、昨年8月以降の合計3.50%ポイントに及ぶ利下げや、昨年12月と今年4月に発表された製造業支援を主眼とした景気対策、レアル安の効果などが期待され、年後半には景気回復ペースは速まりそうです。足元5月にも政府は自動車販売促進のための減税等の景気刺激策を発表しており、政府の景気回復への強い意思がみられます。今後も政府が財政健全化を推し進めつつ、中央銀行がインフレに配慮しながら金融緩和を実施し、ブラジルの安定成長を一体となって目指していくことで、ブラジル・レアルが中長期的に有望な投資対象として再び市場の注目を集める局面が期待されます。

債券市場に関しては、政策金利が9.00%まで引き下げられ、追加利下げの観測もありますが、国債の金利水準は相対的に高く、債券の金利収入の安定的な積み上げが期待でき、引き続き中長期を見据えた投資対象としての魅力が高いものと思われます。

今後も信託財産の運用に最大限努力する所存でございます。引き続きご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上

ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

主として、マザーファンドの受益証券を通じて、ブラジル・リアル建債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。マザーファンドにおけるブラジル・リアル建債券への投資にあたっては、以下のような点に留意しながら運用を行なうことを基本とします。金利や物価の動向、経済情勢や市場環境等を勘案し、ポートフォリオを構築します。固定利付債および割引債の組入比率の合計を、信託財産の純資産総額の50%程度以上とします。投資する債券は、政府、政府関係機関、国際機関等が発行するものとします。マザーファンドにおける外貨建資産の運用にあたっては、イタウ・ユニバンク銀行の運用部門であるイタウ・アセットマネジメントの助言を受けます。為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(年2回決算型)※との間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

※ダイワ・ブラジル・リアル債オープン(年2回決算型)については、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

投資リスク

当ファンドは、主にブラジル・リアル建債券を実質的な投資対象としますので、公社債の価格の下落、公社債の発行体における利払いや償還金の支払いの遅延等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替レートの変動の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

したがって、投資者のみならず投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「公社債の価格変動リスク」、「信用リスク」、「為替リスク」などが考えられます。また、新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

【収益分配金に関する留意事項】分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

詳細な内容については、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」に記載しておりますのでご確認ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	販売会社が別に定めるものとします。 購入時の申込手数料の料率の上限は、 3.15%(税抜 3.0%) です。 スイッチング(乗換え)による購入時の申込手数料を徴収している販売会社はありません。
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に対して 年率 1.407%(税抜 1.34%) ※運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただけます。 ※ブラジル国内債券投資に伴い、ブラジル・リアルを取得する為替取引に対しては金融取引税が課されます。なお、基準日現在、税率は 6.0%です。ブラジルにおける当該関係法令等が改正された場合には、前記の取扱いが変更されることがあります。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

大和証券

Daiwa Securities

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会

日本証券業協会
社団法人日本証券投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

商号等

大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

社団法人投資信託協会
社団法人日本証券投資顧問業協会